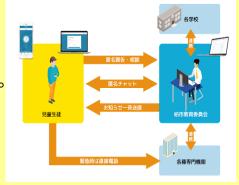
# <u>1人1台端末を活</u>用したいじめ・自殺等対策の取組事例について

# ◆ アプリを活用したいじめの相談・報告(千葉県柏市教育委員会)

- <u>アプリ「STOPit」を活用</u>し、自分がいじめを受けている、もしくは友達がいじめを受けているのを目撃した場合に、<u>教育委員会等の相談員とチャットで相談・報告</u>できる。 ※柏市教育委員会の相談体制は、<u>指導主事、学校心理士の計6名でチームを編成し、1つ1つの相談に対して複数で対応</u>するようにしている。
- <u>相談員は相談・報告内容を学校に連絡</u>し、<u>学校の教師やスクール・カウンセラーが</u> <u>関係者に聞き取り</u>を行い、<u>当該生徒の支援</u>や<u>学校全体でのいじめ対策</u>を行う。



### ◆ メッセージ・Web会議システムによる相談(熊本市教育委員会)

○ <u>1人1台端末に標準装備されているアプリ(ロイロノート)のメッセージ機能</u>を利用して、 児童生徒が担任等の教員に相談できるようにしている事例や、Web会議システム(Zoom) を活用し、<u>1人1台端末を通じて、担任等の教員やスクールカウンセラーによるオンライン</u> カウンセリングを行っている事例もある。



# ◆ SOSの発信(大阪府吹田市教育委員会)

- <u>いじめ防止相談ツール「マモレポ」</u>を活用し、低学年でも 児童生徒が学校や市教育委員会に対して、<u>1人1台端末</u> からSOS(いじめ等で困っていること)を発信。
- 学校や市教育委員会は、相談内容に応じて対応を検討し、 児童生徒とのやりとりや見守り等を実施。



#### (参考)相談用アプリを教育委員会の職員が作成した事例(静岡県掛川市教育委員会)

○ 小・中学校に通う児童生徒から、いじめなどの悩みを1人1台端末で相談できる取組として、 Google formを活用し、「こころの相談ノート」というアプリを教育委員会の職員が作成し、 学校へ導入し、児童生徒の相談に対応している。

※ 導入費用は無料。学校から帰宅後や不登校児童生徒からの相談にも対応している。

